

赤澤論先生 : N Engl J Med(2010)362: 1463-1476.

“境界型耐糖能異常患者に Glinide は効果なし”
Effect of Nateglinide on the Incidence of Diabetes and Cardiovascular Events
The NAVIGATOR Study Group

【背景】糖尿病の領域では、境界型や初期の糖尿病の食後過血糖が、その後の糖尿病進展や心血管イベント進展のリスクファクターと考えられ、食後過血糖を改善することこそ、すばらしいという論調が続いていました。 α GI やビッグアナイドが、境界型からの糖尿病進展を抑制することが報告され、次はグリニドの番とされていました。思わぬどんでん返しが待っていました。

【方法】境界型耐糖能異常をもち、心血管疾患あるいは、心血管高リスク者 9306 名を、nateglinide 群 (30-60mg, n=4645) および placebo 群 (n=4661) に割付け、その後の糖尿病進展、心血管イベント進展について検討されました。

【結果】nateglinide 群の新規糖尿病発症率は 36%、placebo 群は 34%とであり、糖尿病進展抑制効果は認めませんでした。また、心血管イベントについても、nateglinide 群 7.9%、placebo 群 8.3%と有意な抑制効果は認めませんでした。nateglinide 群では、空腹時血糖値や HbA1c 値の有意な低下を認めましたが、低血糖や体重増加のリスクの増加を認めました。

【結論】このように、これまで、ビッグアナイドや α GI、最近ではチアゾリジンで認められた境界型や軽症糖尿病への効果は、グリニドでは証明できませんでした。単純に食後が高いということより、その裏にあるインスリン抵抗性などに目を向けるべきなのかもしれません。いずれにしても、negative data でも、よい仕事は評価されます。Negative 続きでいつもへこんでいる先生方、前を向いてがんばりましょう。。

(文責 阿比留)